



ISOE NEWS

Electronic edition

www.isoe-network.net

2010年3月 ISOE News No. 15
ISOE アジア・ヨーロッパ・北米・IAEA 技術センター (TC) 作成
ISOE ニュースは ISOE 共同事務局 (OECD/NEA-IAEA) のプロジェクトである。

ISOE運営委員会会合

フランス、パリの OECD 本部で 2009 年 11 月 18~20 日に開催された第 19 回 ISOE 運営委員会年次会合には、14 か国の原子力電気事業者と国家規制当局の参加者が出席した。会合の議長は、Cernavoda 原子力発電所（ルーマニア）の新任の ISOE 議長 Vasile Simionov 氏が務めた。

各国の原子力発電所における職業線量の傾向と ALARA 活動に関する参加者の発表の後、委員会は、現在の ISOE 作業プログラムのレビューを行った。重要な成果として、下記の事項の承認が含まれていた。

- 2010 年初頭に、ISOE ネットワークのウェブサイトに ISOE 職業被ばくデータベースに対する新しいウェブベースのデータ入力システムを立ち上げる。
- ISOE に参加している国家規制当局に対するデータ・アクセス制限を撤廃する可能性について調査する。
- 原子放射線の影響に関する国連科学委員会（UNSCEAR）との協力を進め、世界の被ばく傾向に関する UNSCEAR 報告書で使用する ISOE データベースからの選定データを提供する。

参加者は、ISOE エンドユーザーのニーズをさらに満たすことを目的とした考え得る将来の活動についても検討した。



経験交換の改善

他の主題の中でも特に、運営委員会は、原子力発電所の職業被ばくの管理を容易にし、この分野における ISOE の重要な役割をさらに推進するため、ISOE 参加者間の経験交換を強化する方法について協議した。

ISOE ネットワークのウェブサイトは、一定の開発期間を経て、ISOE 職業被ばくデータベースの統合と強化を含む大規模な機能向上を行った。ネットワークは、原子力発電所の放射線防護専門家および規制当局にとって、優れた ALARA 資源となった。ウェブサイトは、ISOE の作業を推進し、公衆に情報伝達することもできる。しかし、その有用性は、ISOE メンバーによる、ISOE データおよび運転経験の提供と、ISOE 技術センターと運営委員会へのフィードバックの提供への積極的な参加に依存している。

運営委員会は、ISOE 規約に記載されている ISOE 参加規制当局に対して、現在の ISOE データベースへのアクセス制限を撤廃する可能性についても協議した。多くの国において、放射線防護管理者は、一般的に、優良な慣行や教訓を共有するための情報公開の方針を有しており、ISOE 参加規制当局に引き続き公開データを制限する理由はないと、参加者は指摘した。最終的に、運営委員会は、ISOE ナショナル・コーディネーターからの更なるフィードバックについては次回の ISOE ビューロー会合での決定まで保留することとして、ISOE データを参加規制当局に完全に公開することに原則、合意した。



ISOE 歴代議長および現議長

左から : D. Miller (米国)、J.Y. Gagnon (カナダ)、
V. Simionov (ルーマニア、ISOE 議長)、W. Mizumachi (日
本)、C.G. Lindvall (スウェーデン)、B. Breznik (スロベニア)

の「ゴールデン・ナゲット」と見なされるべきである。

ISOE の前議長水町氏（日本）は、原子力発電所における職業放射線防護を最適化するための作業管理に関する報告書（2009 年刊行）が発行されたので、今度は、ISOE は職業放射線防護における運転経験と教訓を交換することにその焦点を向けるべきであると指摘した。RP コミュニティーにおいては、各事象は、事象の状況を理解する助けとなる教訓として取り扱われ、再発を防止できるように慣行と訓練を改善するため

参加者の幅を考慮すると、ISOE プログラムと ISOE ネットワークのウェブサイトは、こうした経験の交換および分析において重要な役割を果たすことができる。さらに、放射線防護関連の情報を公衆に公開することが、多くの国の国家政策であるので、V. Holahan 博士（ISOE 規制側副議長、米国 NRC）ならびに S. Djefal 博士（CNSC、カナダ）も、オンライン国別運転経験報告書へのリンクを ISOE ネットワークのウェブサイトに追加する可能性があることを示唆し

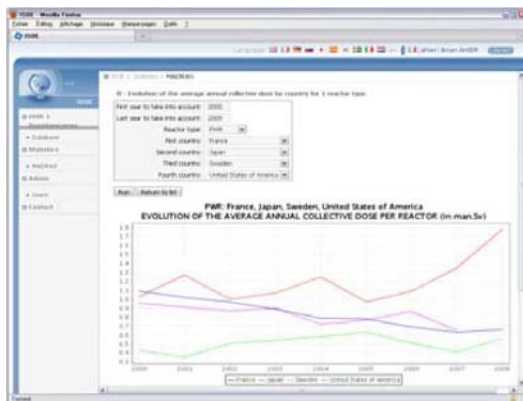
た。最初のステップとして、S. Jahn 博士（ENSI、スイス）は、次回の ISOE ビューロー会合で検討するための ISOE 報告書式草案を作成することを自発的に申し出た。ISOE メンバーは、これらのイニシアチブの進捗についての情報を逐次受けることになる。

ISOEネットワーク（www.isoe-network.net）と ISOE職業被ばくデータベース

ISOE ネットワークは、最近、そのレイアウトと使い勝手を改善する大規模な強化を行った。ネットワークは、現在、ISOE 刊行物、シンポジウム議事録、連絡先、ユーザー・フォーラム、ISOE RP 図書および最新の ISOE 職業被ばくデータベースを含む豊富な ISOE 情報への簡単なアクセスを提供している。



ISOE メンバーは、数年前からウェブサイトを通じてグローバルな ISOE データベースとその関連の統計分析インターフェース（MADRAS）にアクセスできるようになっている。2010年2月には、ユーザーは、ウェブ・ブラウザを利用し、ウェブサイトを通じてオンラインで直接、毎年の ISOE データを入力することもできるようになる。



このキャンペーンに備えて、ISOE ナショナル・コーディネーターは、現在、各国の ISOE データの入力者および／または確認者に対してアカウントを発行している。ネットワークにこの新機能を追加することによって、ISOE データベースのウェブ化が完了する。

ISOE 参加者が ISOE データベースおよびその他の情報にアクセスするためには、www.isoe-network.net にアクセスしてください。パスワードをまだ持っていない場合は、ISOE 事務局 (brian.ahier@oecd.org) に要請してください。

選択されたISOEネットワーク上の刊行物と発表

下記の刊行物と発表は、ISOE ネットワークからダウンロードすることができる。

- 原子力発電所における職業放射線防護を最適化するための作業管理
- 下記における発表と論文
 - 2009 年 ISOE 国際 ALARA シンポジウム
 - 2009 年 ISOE アジア ALARA シンポジウム
 - 2010 年 ISOE 北米 ALARA シンポジウム

最近のISOEシンポジウムからのニュース

以前のシンポジウムの論文と発表を含む全 ISOE シンポジウムに関する更なる情報が、ISOE ネットワークに掲載されている。

2009 年ISOE国際ALARAシンポジウム (2009 年 10 月)

2009 年 10 月、IAEA は、2009 年 ISOE 国際 ALARA シンポジウムをウィーンで開催した。シンポジウムは、27 か国から 110 人の参加者を迎え、原子力発電所における放射線防護の最適化について議論した。現在、多数の IAEA 加盟国が、初めての原子力発電所や研究炉の建設を検討している。長年にわたって学んだ世界中の原子炉運転の優良な放射線防護の慣行や安全文化の伝達は、新設原子炉サイトの作業員ならびに世界の原子炉運転の優良な作業記録の維持にとって極めて重要なことである。

国際組織による ALARA の取り組み、ALARA 原則実施の事例と評価、線量低減に対する技術的および管理的アプローチ、原子力発電所における職業被ばく、CANDU 炉における職業被ばくの管理、ならびに傾向と見通しの 6 つのセッションで 35 の論文が発表された。基調講演「グローバルな原子力安全およびセキュリティ体制」が K. Mrabit 氏 (IAEA) によって行われた。他の IAEA の発表には、例えば、「OSART プログラムと最近の OSART ミッションの際の放射線安全関連の所見」や「IAEA 技術協力プログラム」が含まれていた。



「最適化の原則」に関する再教育講座が、現在および過去の ALARA の概要を中心に C. Schieber 氏 (ISOE-ETC) によって行われた。「ISOE ウェブサイトとデータベース」に関する 2 つ目の再教育講座

が、L. D'Ascenzo 氏 (ISOE-ETC) によって行われた。

原子力発電所における職業 RP に関する 2 日間の興味深い発表の後、Shahla Alavi および Jim Pequegnat 両氏 (カナダ) による「CANDU 6 号機の改修と放射線防護の最適化」と M.A. do Amaral 氏ら (ブラジル) による「Angra 1 号機の蒸気発生器交換停止に対する RP」の 2 つの優れた発表が表彰された。

2010 年 ISOE 北米 ALARA シンポジウム (2010 年 1 月)

2010 年 ISOE 北米 ALARA シンポジウム/EPRI 放射線防護会議が、フォートローダーデール (米国) で 2010 年 1 月 10~13 日に開催され、カナダ、メキシコ、フランス、日本、スイス、オランダおよび米国を含む 7 か国から 130 人の聴衆が出席した。

Terry Jamieson 博士 (カナダ原子力安全委員会) が、カナダの原子力カルネサンスと題する総会スピーチを行った。Jamieson 博士は、カナダの原子力拡大計画の包括的概要を提供し、選択された CANDU ユニットの改修するための重要な進行中の努力について説明した。彼の論文は、2010 年の会合に対する優れた論文の 1 つとして選定された。



Brown's Ferry の管理者

Terry Brown 氏 (クック原子力プラント) は、2 号機の燃料取替停止に関する論文「ウェスティングハウス社製アイス・コンデンサ型 PWR に対する米国集団線量業界記録 (0.34 man・Sv)」を発表した。ALARA 線量低減イニシアチブに対する 2500 万ドル (米ドル) という経営者のコミットメントは、クックの ALARA 5 年計画の成功と燃料取替停止の達成にとって重要なことであった。

Brown's Ferry 1 号機 (TVA) は、1984 年から行政停止されていた後、2007 年の再起動に先立って主要なステライト弁の交換を達成したことで、2009 年の NATC ISOE ワールドクラス ALARA パフォーマンス賞を受賞した。Brown's Ferry 1 号機は、2007 年の再起動に先立ち、ALARA および近代化努力に 10 億ドル (米ドル) 以上投じた。

他のシンポジウムのトピックには、空气中浮遊放射能事象から学んだ教訓、CANDU の ALARA 問題、ヒューマンファクターおよびサイトの ALARA プログラム、ホットパーティクルの除去、ならびに NRC の RP 新検査モジュールが含まれていた。

Garcier 博士 (EDF フランス) は、ISOE-NATC メンバーにより、EDF 放射線防護統括責任者としてのその 7 年間の在職期間中の EDF 原子力発電所の卓越した業績に対して年間職業保健専

門家として表彰された。EDF の職業線量達成に関する彼の発表は、印象的で、雄弁に伝えられ、聴衆から非常に高い評価を受けた。

近々の予定：2010年ISOE国際ALARAシンポジウム（2010年11月）

ISOE ヨーロッパ技術センター主催の2010年ISOE国際ALARAシンポジウムが、英国のケンブリッジで2010年11月17～19日に開催予定である。

会合に先立ち、2010年11月16日に放射線防護管理者（RPM）と規制機関代表者の会合が開催予定である。

シンポジウムの告示、論文の募集および登録書式は、ISOE ネットワーク上で入手できる。



2010年のISOE会合スケジュール

- 2010年5月21日：ISOEビューロー会合（OECD、パリ、フランス）
- 2010年9月13～15日：データ分析に関するISOE作業グループ（OECD、パリ、フランス）
- 2010年8月30日～9月1日：2010年ISOEアジアALARAシンポジウム（韓国）
- 2010年11月15日：第20回ISOE運営委員会会合（ケンブリッジ、英国）
- 2010年11月17～19日：2010年ISOE国際ALARAシンポジウム（ケンブリッジ、英国）。これに先立ち、11月16日に放射線防護管理者（RPM）と規制当局代表者の会合が行われる。

詳しい情報は、ISOEネットワーク：www.isoe-network.netをご覧ください。